

# 魚津の教育

魚津市教育センターだより174号

令和6年7月発行

魚津市教育センター

〒937-0053 魚津市林林町1-21

TEL (0765) 23-9161

## 『教育は人なり』～ずっと大切にしたいこと～

よつば小学校 校長 森田 美幸

毎日校内を巡っていると、うまくいかないことばかりで悩んでいた子供の「できた!」という貴重な瞬間に出くわすことがあります。そんなとき、思わず「やった、頑張ったね」とその子の頭を撫でてしまう自分がいて、「ああ、またやってしまった」と反省。しかし、私が条件反射のようにそうしてしまう背景には、今は亡き祖母と私との「つながり」の歴史がありました。



今から30年ほど前のこと、祖母が、まだ赤ちゃんだったひ孫(私の娘)の頭を慈しむように何度も撫でながら言った言葉が今でも心に残っています。

「こうやってやさしく撫でてやると、やさしい子になるんだよ」

おばあちゃん子だった私は、「そうなんだ」と信じて、まだ言葉も分からない我が子に話しかけながら(「よしよし」と)頭を撫でるようになりました。遠い記憶ではありますが、私も祖母に何度も頭を撫でてもらった感触、温もりを覚えています。やさしい子に育ったかはさておいて、祖母といると言葉では言い表せない安心感がありました。大きくなってからも、不安なときや失敗して落ち込んだときなどは祖母が居る傍らにちょこんと座り、他愛もないおしゃべりをするだけで守られている気持ちになり、再び立ち上がる勇気ももらったものです。明治生まれでしつけに大変厳しい祖母でしたが、発せられる言葉は全て腑に落ち、今でも祖母から教えられたことは私の体の一部になっています。

教師となり、学級づくり、授業づくり、人間関係づくり等々、子供たちにとってよりよいものを目指して研鑽を積んできましたが、最終的に行き着くところは、「教育は人なり」、つまり、教育は人と人とのつながり(信頼関係)の上に成り立つものであるということです。自分の身近に安心して信頼できる存在が見つかれば、そこを安全基地として自分の世界を広げていくことが可能となるのです。

「時代の流れ」とか「社会の変化」といった言葉で片付けてよいのか分かりませんが、家庭も学校も時間の流れが速くなっているように感じます。子供と視線を合わせてゆったりと会話を楽しんだり、時には「頑張ったね」と頭を撫でたりするくらいの心のゆとりがなくなっているとしたらとても寂しいことです。私淑する詩人であり画家である星野富弘さんの詩に「花だって ほめてあげたほうが 元気になるんだそうですよ」という一節があるのですが、忙しくなってゆとりがなくなると思い出し、相手のよさに目を向けて温かい気持ちでつながることができるよう、自分を戒めています。

ICT機器等の導入により、子供たちの生活も学校の授業スタイルも大きく変化し便利になりました。もちろん、社会の変化に応じて学校もアップデートしていかなければなりません。ただ、そんな時代だからこそ、人を育てる教師である私たちは、人が生きていく上で変わらず大切にしなければならないことを決して見失うことなく、時間をかけ、心を尽くして守り続けていきたいと強く思います。

「教員としての一步」

西部中学校

ながおか 長岡 ありさ 可紗

縁あって西部中学校に配属され早3か月が経ちます。富山県出身ではないため、地域のことや言葉など馴染みがないことも多く戸惑うこともあります。先生方や生徒と様々な話をしながら、充実した日々を送っています。

今年度はチームティーチングにより、たくさん授業を見る機会に恵まれています。授業の技術や、生徒観察の視点など、自分が授業をしているだけでは分からないことに気付くことができ、教材研究にあたり様々な観点で自身の学びを深めることができています。私は1学年の国語を担当しています。生徒にはたくさんの言葉を知って、教養を身に付ける土台を作ってほしいと思いつながり日々の授業をしています。また、今年度からチーム担任制が始まり、他の先生方の学級経営や生徒との関わり方を近くから学んでいます。様々な先生の見方を知りながら、個性豊かな1学年の生徒一人一人と向き合っています。

初任者指導の先生をはじめ、周囲の先生方には授業や生徒指導についてご指導いただき、大変感謝しています。教員としての自覚をもって研鑽と修養に励み、今後も生徒とともに学び続ける姿勢でありたいと思います。

「教員として目指す姿」

東部中学校

ゆぐち 湯口 まい 舞

魚津の子供たちは活気にあふれており、元気のよい挨拶や学習へのやる気、和気あいあいとした雰囲気等をすぐそばで感じる事ができてとてもうれしいです。

新規採用教員として勤めている今、慣れない環境や仕事の毎日に心も身体もなかなか休まりません。しかし、それは担任している一年生の子供たちも同じだと思えます。そのため、これまでと違うクラスメイトや先生、勉強内容等に不安を感じている子供たちと手を取り合い、足りないところを補い合うことができる関係になりたいです。また、学力をつけるだけでなく、「人としてどうありたいか」を子供たち自身が考え、成長することができる学校生活を送れるようサポートしていきたいです。

出会いとはかけがえのないものです。互いに認め合い、共に過ごした日々が人生の宝物になるよう、一日一日を大切にしていきたいです。

「みんなが楽しい学級へ」

星の杜小学校

かしわぎ 柏木 なお 菜緒

星の杜小学校に赴任して数か月が経ちました。毎日、周りの先生方や子供たちに支えられながら、楽しく過ごしています。

私が小学校の6年生の時、学校がとても好きで、いつも友達や先生と楽しく過ごしていました。そのときの担任の先生は、とても温かく自分たちをいつも大切にしてくれていた先生でした。先生のそんな姿が、「学校は楽しい」と感じさせてくれていたと思います。先生になったとき、わたしもそんな学級をつくりたいと思いました。

今、わたしは2年生の担任になりました。2年生の子供たちは元気いっぱい明るく、とても素直です。また、周りの友達のために進んで手伝ったり、温かい声をかけたりすることができます。子供たちと過ごす日々が本当に楽しいと感じています。周りの先生方は、いつも子供たちに温かく接し、子供たちも先生と過ごすことが本当に嬉しそうです。先生方から教えていただく授業のつくり方や子供との接し方、学級経営の仕方等、たくさんのお話を大切にして、子供たちが毎日学校が楽しいと感じられるような素敵な学級をつくりたいと思います。

## 「居心地のよい学級を目指して」 よつば小学校 <sup>うおや</sup>魚谷 <sup>ほのか</sup>ほのか

学校が自分の居場所だと感じていた幼少期。価値観の異なる子供たちが共生する学級が私にとって居心地のよい場所であったのは、出会った先生方が全力でその環境を創り上げてくださっていたからなのだと教員になった今だから思えます。しかし、実際は学級経営の難しさに頭を悩ます毎日です。児童同士のトラブルを上手く仲裁できなかったり、児童の言動から求められていることを感じ取ることができなかつたりして、もどかしい気持ちになることがよくあります。その度に、周りの先生方に助けられ、子供たちに寄り添う姿勢を学ばせていただいています。

大好きな地元・富山県で新しいスタートを切れることを大変嬉しく思います。次は自分が、教員という立場から、多感な時期を生きる子供たちが自分らしくのびのびとたくましく成長していけるよう、愛情や熱意あるサポートをしていきます。教員としての自覚・責任・矜持をもって精進していきたいです。

## 「夢を叶えて」 よつば小学校 <sup>しらいし</sup>白石 <sup>あおい</sup>蒼

私が教師になりたいと思うようになったのは、小学6年生の頃でした。この頃の私は、小学校での生活がとても楽しく感じており、いつしかこんなクラスを自分でもつくっていきたいと思うようになりました。そのときから、教師になることが私の夢になりました。

夢が叶い、よつば小学校に赴任してから数か月が経ちました。私は3年生の担任になりました。初めてのことばかりで、至らない点もありますが、周りの先生方から指導していただいたり、助けていただいたりしながら毎日を過ごしています。

教師になってから、大変だったこともありました。しかし、子供たちが笑顔で「先生、こんなことあってね」と嬉しかったことを話しに来たり、「できた」「できるようになった」と話しかけてきたりするときがとても嬉しく、私のやりがいになっています。

私のクラスの子供たちは積極的に手伝いをするようなやさしい子供たちです。また、子供たち一人一人によさがあります。クラスの子供たち全員にとってクラスが安心できる居場所になるようにしたいです。先生方からご指導いただいたことを生かしながら、子供たちと共に成長し続けることができるようにこれからも努力を続けていきます。

## 「子供たちと共に」 清流小学校 <sup>さかい</sup>酒井 <sup>まゆ</sup>真由

私が教員を志したきっかけは、小学校5年生の時の担任の先生との出会いです。人前で話すことが苦手だった私に、先生は全校児童の前で話す機会をつくり、その発表を認めてくださいました。そのことで、自分に自信をもつことができました。私に寄り添い、力を伸ばしてくださった先生の姿から、教員という職業への憧れをもつようになりました。

そして今、5年生の担任になり、子供たちと過ごす毎日に喜びを感じています。出会った頃の4月、「心を健康に、安心して過ごせる学級をつくろう」と学級開きをしたものの、クラス替えもあり、教室は緊張感が漂っていました。そこで、子供たちから今の素直な気持ちや、どんなクラスにしていきたいのか、一人一人思いを聞きました。子供の声に耳を傾け、共に考え、生活することで、少しずつクラスの雰囲気も柔らかくなってきたように感じています。これからも日々、子供たちとコミュニケーションを取ることを大切に、共に成長し、寄り添える教員であり続けたいと思います。そして、子供たちのよさを見付け、一人一人の力を伸ばしていきたいと感じています。

## 「試行錯誤」

経田小学校

なかだ ひろと  
中田 大翔

憧れだった教師になり、2か月が経ちました。子供たちと過ごす日々は、反省の連続です。自分の思うように授業ができないと落ち込んでしまうし、自分の思いをうまく子供たちに伝えることができないと悩んでしまいます。

でも、そんな時、クラスの子供たちが助けてくれます。「先生、ぼく〇〇するよ。」「こんな風にしたら、うまくいくよ。」など、いつも声をかけてくれ、温かい気持ちになります。また、子供たちが生き生きと活動している姿を見ると、うれしくなります。その度に、子供たちにとって楽しくて分かりやすい授業展開や、指導をする際の子供たちの心に響くような言葉がけを工夫したいと考えようになりました。「教師として、目の前にいる子供たちにできることを増やしていきたい・・・」試行錯誤することが楽しいと感じる瞬間が増えています。

これからも、教師としての試行錯誤は続きます。周りの先生方に支えていただいている感謝の気持ちと、全力で取り組む姿勢を忘れず、チームの一員として頑張っていきます。

## 第1回 若手教員研修会

5月9日、6名の市内新規採用者が参加し、第1回若手教員研修会が行われました。アイスブレイクとして「全力じゃんけん」「他者紹介」を行った後、ここ1ヶ月を振り返り、自分で点数をつけ、「がんばった自分」「うまくいなくて悩んだ自分」について語り合いました。同じ悩みをもつ仲間、一緒にがんばっていこうと思える仲間の存在から、「横とのつながり、同期とのつながり」を感じることができた時間となりました。

第2回以降の研修は2年次、3年次の先輩教諭とも一緒に研修を行います。今度は「縦のつながり」を感じることができていることを期待しています。

(アンケートより)

- ・ 今日の研修では同期と話す時間が設けられていました。同じような悩みをもつ同期が多くいて、自分だけではないと少し安心しました。それと同時にかなり周りの先生に頼っていることも実感しました。まだまだ先生方に頼りながらしていくことになると思いますが、少しでも早く頼ってもらえるような存在に成長していきたいと思えます。
- ・ 多忙な中お互いの様子がわからないので、他校の様子やそれぞれの現状が聞けて、客観的な視点を得られました。



第2回 7月9日(火) 「一人一人を大切にする児童生徒理解のポイント」

第3回 8月9日(金) 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童・生徒、保護者への対応」

## 各校に「校内すまいる」を開設しました！

4月より各校担当の指導員を迎え、「校内すまいる」がスタートしました。各校の校内すまいるの概要や5月末まで利用状況等をお知らせいたします。

### ①各校のすまいる開所曜日・指導員

- ・週3回、主に午前中。開設曜日は各校による。
- ・各校指導員



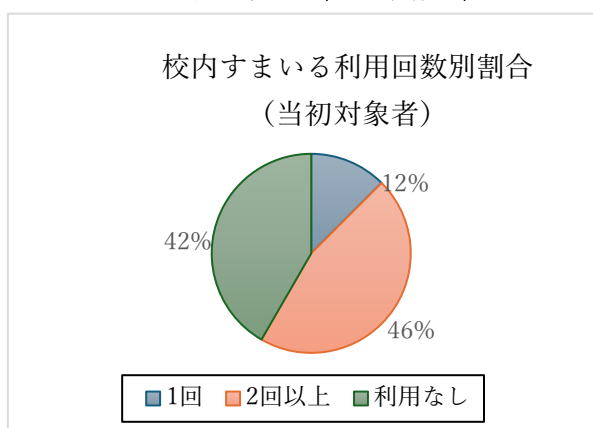
校内すまいるコーディネーター 原 一美			
星の杜すまいる	宮崎 賢一郎	よつばすまいる	山瀬 裕子
清流すまいる	濱屋 二三子	道下すまいる	杉本 美穂子
経田すまいる	小林 和恵 澤崎 洋子		
西部中 ※	野口 高志	東部中 ※	石丸 茂雄

※ 中学校指導員は、カウンセリング指導員と共に相談室での支援を行ったり、個別学習室で生徒の学びをサポートしたりしています。

### ②各校のすまいる教室の様子



### ③校内すまいるの利用状況（5月末報告）



校内すまいるのスタートに当たっては、まずは令和5年度に欠席日数90日以上の子や関係機関との関わりが薄い保護者に利用を働きかけました。そのうち2回以上(継続して)の利用が46%、1回(見学)が12%、併せて58%の利用がありました。現在は、児童の実態や各校の実状に応じて、利用対象者を拡大して、不登校児童を生まない予防的な取組を行っている校内すまいるもあります。

5月末まで、校内すまいるの利用回数は、のべ337回となっています。

#### ④通所児童の様子（各校からの報告の一部）

- ・本人・保護者は、市すまいる、校内すまいる、通級と3か所に行く予定を立て、安定したスケジュールで過ごしている。
- ・昨年度、市の適応指導教室に17日通所。今年度は、週1回のペースで、月曜日、2時間半、校内すまいるで過ごしている。
- ・指導員にやりたいことを伝えられるようになった。教室の様様替えやあいさつビンゴカードづくり、すごろくづくり等、多様な活動をした。少しの時間、学習にも取り組んだ。

#### ⑤よりよい校内すまいるに向けて

○2ヶ月ごとに、校内すまいる利用状況の報告

○学期に2回、校内すまいる、市相談員、市すまいる指導員、市教育委員会が出席する「校内すまいる研修会」の開催

（研修内容）

- ・各校内すまいるの情報交換（現状、課題、今後の取組について）
- ・市すまいる指導員と校内すまいる指導員との通所児童についての情報交換

○魚津っ子元気プラン推進会議推進チーム会議の開催

○市すまいる指導員の校内すまいる見学



## 生徒指導研修会

6月7日（金）魚津市のスクールソーシャルワーカーの上波薫先生を迎え、「SSWと小中学校との連携の現状と今後の在り方」と題し、講話をいただきました。この研修会は、魚津地区教育センター協議会の相互参加型研修会であり、他地区の先生、新川地区のスクールソーシャルワーカーを含め36名の参加がありました。

上波先生は10年間魚津市を担当しておられます。また、精神保健福祉士でもあり、その豊かなご経験から事例を交え、魚津市の状況や児童生徒の置かれた環境への働きかけ、教育と福祉、医療の連携の大切さについてお話しいただきました。



（アンケートより）

- ・子供たちには様々な背景があり、学校だけの対応では難しい事例が増えてきていることを日々感じています。昨今、外部の専門家にも加わっていただき、チームで対応することができるようになり、学校にとっても保護者にとっても何より子供にとってよかったと感じることが多くなりました。
- ・「～を目指して支援をしたい」と教師の目線から支援に当たってしまいそうになるが、本研修での学びを生かし、「この子はどうなりたいか」を傾聴して支援に当たりたいと改めて感じました。
- ・本日の講話から「本人主体」「家庭の環境背景」「専門スタッフ（第三者）との連携」等の視点を大切に支援していくことの大切さを具体的に学びました。感謝しています。

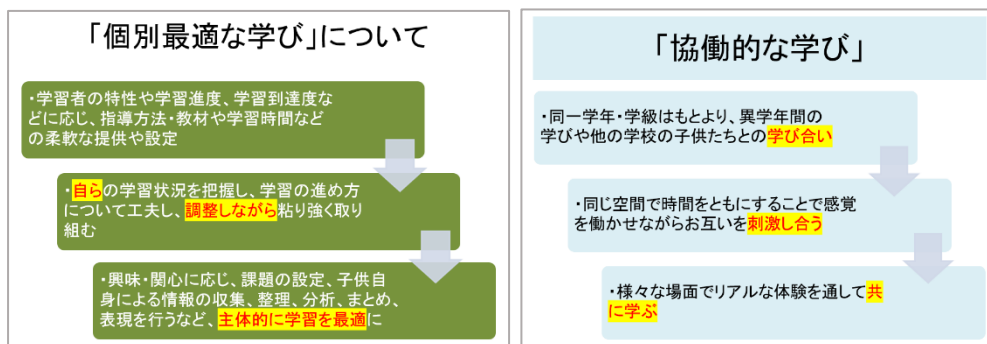
5月21日(火) 令和のとやま型教育推進事業の一環として、元千葉大学名誉教授 天笠茂先生をお迎えし、よつば小学校4年2組の特別活動の授業を参観後、『「令和の日本型学校教育」の目指すところ—教室の多様化を踏まえて—』と題し、ご講演いただきました。

天笠先生からは、最近、特別活動を提案授業として公開することが少ない中、特別活動に継続的に取り組んでいることの素晴らしさを初め、授業内容についても多くの示唆をいただきました。



(アンケートより)

- ・クラスの全員が安心して自分の考えを発表できる温かい雰囲気が印象的でした。日頃からの秩序や関係づくりが学級・授業の土台であると改めて感じました。また、学級会に限らず、主体的・対話的で深い学びを実践していく上で、導入（意欲付け・動機付け）が肝心であることを感じました。どの教科でも学びの過程を子供たちに学ばせながら、主体が子供となる授業を作っていくために教師の在り方を考え続けていきたいと思いました。
- ・令和の日本型学校教育について GIGA スクール構想が大きく取り上げられているが、教師の立場で学校教育を維持していくためには、ICT を基盤としつつも個別最適な学びを実践していくことが大切ではないかと感じました。多様な個性が集まる教室で一人一人が学べるように教師の役割を考え、問題解決型の学習の進め方を教え、経験させることが大切であり、教師の働き方改革にもつながっていくと感じました。



天笠先生 講演会資料より

### 【魚津市「とやま型学力向上プログラム研修会のお知らせ」】

道徳が教科化され、小学校は7年目、中学校は6年目を迎えております。道徳の授業はどうでしょうか。次の学習指導要領の改訂の折り返しを過ぎた今、改めて自身の道徳の授業を見直す機会になればと考え、桑先生をお迎えしました。みなさんで授業のバージョンアップを目指しましょう。

日時 8月21日(水) 14:00~16:00

場所 新川文化ホール 201号室

講師 元横浜市立小学校校長 桑 由利子 先生

演題 「問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業の展開」

東書Eネット

<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/detail/114138/>



## 魚津市教育センターからのお知らせ

### 研修事業の予定

7月 26日(金) 情報教育研修会	9月 26日(木) 生徒指導協議会③
7月 30日(火) 理科教育講座(自然観察)入善町	10月 8日(火) 特別支援教育研究会③
7月 31日(水) 授業力向上に関する研修会 講師 大村 龍太郎先生	11月 15日(金) 魚津市子ども会議
8月 1日(木) 郷土研修会	11月 29日(金) 生徒指導協議会④
8月 7日(水) 生徒指導に関する講演会 講師 西村 優紀美先生	12月 6日(金) 情報教育研究会②
8月 9日(金) 若手教員研修会③ 指導講話 古田 香織先生	1月 30日(木) 情報教育研究会③
8月 21日(水) とやま型学力向上プログラム研修会 講師 糸 由利子先生	2月 4日(火) 特別支援教育研究会④
	2月 6日(木) 魚津っ子の学び向上委員会(予定)
	2月 13日(木) 魚津市教育センター運営委員会 (予定)
	2月 14日(金) 生徒指導協議会⑤

### 市教育支援センター「すまいる」からのお知らせ

今年度より「適応指導教室」から「教育支援センター」と名称が改められました。家庭や学校生活に困難さを感じている児童生徒の自己肯定感を高め社会的自立を支援することを目指して、火曜日～金曜日の10:00～15:00を活動日としています。ものづくりやボランティア活動、学習やスポーツ等、一人一人のペースに合わせて活動できるように3名の指導員が支援しています。また、月曜日を相談日とし、相談員が保護者との面談を行っています。印田幸代特別支援教育コーディネーター、橋本英子スクールソーシャルワーカー、柴田孝枝スクールカウンセラーが相談業務を担い、学校や関係機関と連携しながらきめ細かな支援を行っています。



### Column

4月より魚津市教育センターに赴任し、早3か月。指導主事として通常訪問研修や様々な協議会に参加する機会をいただき、魚津市内の小中学校全体の様子を俯瞰して見ることで多くなりました。学校現場では目の前の子供たちのことで精一杯だった私も、魚津の子供たちや、それを支える先生方のために何ができるのかを考えながら仕事をするようになりました。安全安心な学校づくり、問題解決型学習を基にした授業改善、GIGAスクール構想、不登校児童生徒への支援や居場所づくり等、様々な課題について日々考える中で、学び続けることの大切さを痛感しています。そんなとき、先輩からいただいた言葉を励みにしています。「研修を受けたり本を読んだりすることで、今までやってきた実践を理論的に裏付けていく。そうやって自分がやってきたことを確かめ、自信を付けて実践を続けていく。たくさん学んで自分を磨いていきましょう。」と。これからも目の前の課題と向き合いながら、考え、学び続けていきたいです。

研修の夏が始まります。先生方が日々の実践を振り返り、気づき、学びを得られる研修になるように運営していきたいと思えます。 魚津市教育センター 指導主事 上里 大志

